

生活習慣を見直してアクションを始めることが、省エネ達人への第一歩。まずはあなたのエコレベルを確認しましょう。
環境政策課/TEL674-7486

スタート

安売りしていると、使うかは別にして買ってしまふ

シャンプーなどの消耗品は、詰め替え用を選んでいる

使い捨てのお箸やスプーンはもらわない

はい →
いいえ →

地元産の野菜などを積極的に買っている

買い物は徒歩か自転車で行くようにしている

スーパーなどのリサイクルボックスをよく利用している

マイバッグはいつも持ち歩いている

エコレベル上級 ★★★

あなたこそ、真の「省エネ達人」です。今後は周りの人も巻き込んで、エコの輪を広げましょう

エコレベル中級 ★★

まずは、小さいアクションから。あなたをきっかけに、ムーブメントが巻き起こるかも

エコレベル初級 ★

まずはワンアクションから。地球の未来を救うのは、あなたかもしれません

アドバイス

生活する上で欠かせない買い物。この買い物で地球環境にやさしい取り組みを始めてみませんか。初めての方は、エコバッグを持ち歩いてみるころからスタートしてもいいですし、既に実践している人は「リデュース」を意識して買い物をしてみるといつもと違う発見があるかもしれませんね。

たかつき歴史アラカルト⑩

ちょっと昔のお雛さま

しろあと歴史館では、ちょっと昔の雛人形や雛道具を収蔵しています。主に明治から昭和30年代ごろに家庭で飾られていたもので、現在の雛飾りとは少し違った趣が感じられます。

現在では、雛飾りは一式そろえて購入するのが一般的ですが、かつては少しずつ買い足したり、節句の祝いに贈られたりしたものを並べていました。そのため、明治40年代生まれの祖母の内裏雛(だいらびな)と三人官女、昭和初期生まれの母の五人雛子(ばやし)と三人仕丁(しちょう)、昭和30年代生まれの娘の隨身(ずいじん)と、世代の異なる雛人形を、ひとつの雛壇に飾る例も見られます。

また、雛人形の前でままごとに興じたり、人形に膳を調べて供えたりしたのでしょうか。明治時代に新調され、

10組ずつ木箱に納められた陶磁器の小皿や小さな茶碗が、雛道具として伝えられています。さらに、おけやざる、包丁やおろし金などの調理道具を備えた台所の模型、羽釜や鍋を備えたかまどの模型も、雛道具に含まれています。このように台所道具を雛道具に加える風習は、江戸時代から京坂地方で見られ、風俗史家・喜田川守貞の著書『守貞漫稿』(天保8(1837)年～嘉永6(1853)年)にも記されています。

もう一つ、守貞が京坂地方の特徴的な雛飾りとして紹介しているのが御殿飾りです。御殿飾りは、寝殿造の御殿の模型を据え、室内や縁側・庭前に雛人形を配置する飾り方で、江戸時代から見られます。当初は素木の木肌が清々しい御殿が主流で

1・2段の雛壇に飾っていましたが、大正～昭和時代には華やかに彩色された御殿を最上段に据え、人形を各段に振り分けて4～7段とする飾り方が流行しました。

どのお雛さまも各家庭で大切に飾られてきたのでしょうか。ときには女雛(めびな)の扇や仕丁のちり取りなどの小物が、手作りで補われているのに気付くこともあります。

(しろあと歴史館)



雛道具 台所の模型